

# 日刊 勤労千葉

82.5.18

No. 1046

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五六(公衆)電話三二七二〇七

## 「分割・民営、国鉄労働運動の暴力的圧殺」をかかげた、 オ二臨調(部会)報告弾劾！反撃戦に総決起しよう、

### 声明

(一九八二年五月十七日)

### 国鉄千葉動力車労働組合

すべての組合員の皆さん、全国の国鉄労働者の皆さん、五月十七日夕刻、オ二臨調オ4部会(加藤寛部会長)は、断じて許すことのできない、国鉄労働運動解体の憎悪にみちた「オ4部会報告」を提出した。

既に明らかなるように、この「報告」は、三公社の「行革」とりわけ国鉄について、「巨大粗筋は労使が運命共同体的に一体感を持ちにくい」「民営・分割すること幅広い事業ができ、採算性を確保できる」として「87年度までに民営・分割を完成させる」とする一方で、今日までの16兆円更に年々1兆円をつみ上げている膨大な赤字の最大原因である国策としての建設投資については自民党・支配者階級の利益をくんで当初の「打ち切り・凍結」の線を後退させ「当分の間見合わせる」とどめるといふ露骨さである。特に悪らつな事には、「緊急措置」と称して、最大の憎悪と狙いをこめて、①取壊規律の確立、②現協の破棄・廃止、③厳罰・差別人事、④新採停止・合理化・働き度向上、⑤貨物・地交線・工場・病院等の分離・全廃、⑥乗車証制度の廃止、⑦給与の抑制、等々にわたる具体的攻撃項目をあげて、既得権の全面的な暴力的剝奪を宣言している事である。どうして、このような理不尽な、凶暴な攻撃を認める事ができようか。

すべての皆さん、とりわけ「ヤミ・カラ」キャンペーンに歯をくいしばって取壊で不屈に闘っている全国の国鉄の仲間たち、

支配の側の責任を全面的にほあかむりし、経営悪化の原因は全て「労働関係の不安定さにある」と決めつけ、極めて意図的な「ヤミ・カラ・悪慣行」攻撃をおこなってきた敵の本音を、はっきりとここに見とどけることができる。

考えども見よ、あいつぐ合理化、過密ダイヤの中で常に事故の危険にさらされながら24時間三六五日、昼となく夜となく働いている我々国鉄労働者が生きかつ働いていくための最低限必要な労働条件が既得権であり、ささやかな手当は低賃金国鉄労働者と家族のギリギリの生活を支えている必要不可欠の生活給の一部ではないか。このどこに、たるみや、なまけ、があるというのだ！事故がおきればクビになり、ささやかな当然の権利・要求さえ、甘え、だど叩かれ、聞えれば処分され、あつう事がデッチあげても警察が弾圧にのり出してくる。こんな不正義・横暴が許せるか！三里塚農民をまるで虫けらのように踏みじり、「国策」の名の下に圧殺してゆくあの三里塚でのやり方、権力の暴力が、全く同じものとして国鉄労働者、いな、全ての労働者・人民に今襲いかかっているのだ。これを許せば、戦前の暗黒・反動の時代であり、行きつく先は戦争と侵略と死だ。

われわれは今日まで耐えに耐えてきた。ガマンにも限度がある。怒りを今こそとき放つときがきた。国鉄労働者の怒りと戦術力を爆発させ、支配者共のこの専横、この暴虐をうちくたくときがきた。この時に、「行革」推進の尖兵・民社・鉄労と手を組んでの「五者共同」屈辱路線は敗北への道だ。「正すべきは正さう」なる自主規制の他労組中央、ましてや権力・当局と一体となった動労「本部」革マルの「何こう運動」「告訴たれこみ」は、許しがたい裏切り、反動だ。産して死を待つ屈辱の道を拒否し、生活と権利を守り、暗黒・反動・侵略・戦争への道を断つため反撃にたとう。ゆが勤労千葉は、怒りに燃えた全国の国鉄労働者の最先頭に立ち、三里塚と国鉄を基軸に全面的な反撃につとめる事を宣言する。即ち全この労働者は「6.5労働者集会」に総結集し、全面対決。総反撃につとめて出ようではないか。共に決起しよう。

オ二臨調基本答申粉碎、国鉄労働運動解体攻撃  
粉碎、勤労千葉への刑事弾圧許すな、三里塚二期着工  
阻止

## 6.5労働者集会

・基調報告・中野書記長(時)6月5日(土)午後5時30分  
・各界連帯の報告 (所)千葉市民会館大ホール  
・即ちの報告・決起時 (主催)勤労千葉